

図書館業務システム沿革

年	月	内 容
1975(昭和50)年	2月	閲覧業務用の電算システム(OKITAC 4300C)を導入
1983(昭和58)年	1月	ブックディテクションシステムを導入
1986(昭和61)年	7月	NEC 図書館貸出システム(PC1 台)を追加
1989(平成元)年	4月	図書館業務用システムを導入(富士通 ILIS K)
		蔵書検索サービスを開始
		NACSIS-CAT, ILL に参加
1994(平成6)年	2月	図書館業務用システムを更新(丸善 CALIS)
		学内 LAN によるオンライン化で蔵書検索が24時間可能となる
1997(平成9)年	4月	目録遡及入力を開始
1998(平成10)年	2月	業務用端末をVT モニタから全てパソコンに更新
		CD-ROM サーバを導入し、各種データベースの提供開始
2002(平成14)年	2月	図書館業務用システムを更新(富士通 iLiswave)
		蔵書検索(OPAC)サービスをインターネットで公開
	3月	文献画像 DB サーバを導入し、貴重図書画像データの提供を開始
2005(平成17)年	1月	図書自動貸出・返却システムを導入(3M ABC-II)
2007(平成19)年	2月	図書館業務用システムを更新(富士通 iLiswave)
		入館管理システムを導入

目録所在情報の電子化

(平成18年4月現在)

内 容	冊 数
全所蔵冊数	436,254 冊
電子化しない冊数	0 冊
電子化済みの冊数	403,836 冊
平成18年度以降電子化が必要な冊数	32,418 冊

図書館業務システム配置図

